

質問紙調査の分析と考察〈中学校〉

1 全体的な傾向

松本市の中学生の状況を比較すると、全国とほぼ同程度でしたが、ポイントが大きく異なっている項目は次のようなものがありました。（カッコ内の数値は、全国との比較）

◇「今住んでいる地域の行事に参加していますか」〈当てはまる〉 33% (+15)

〈やや当てはまる〉 33%(+8) →地域の行事に進んで参加している傾向が見られます。

□「放課後や土曜日は何をして過ごすことが多いですか」（複数回答可）

◇ 家で勉強や読書をしている 〈放課後〉52% (+13) 〈土曜午前〉37% (+11)
 〈土曜午後〉 53% (+14)
 ◆ 友達と遊んでいる 〈放課後〉29% (-5) 〈土曜午前〉19% (-7)
 〈土曜午後〉 37% (-11)

→放課後や土曜日は、友達と遊ぶより家で勉強や読書をしている傾向が見られます。

◇「読書は好きだ」〈当てはまる〉…52% (+6) 「学校や地域の図書館にどれくらい行きますか」〈ほとんど行かない〉…48% (-11) →読書好きな傾向が見られます。

□「普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか（携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く）」〈携帯電話やスマートフォンを持っていない〉…28% (+12)（本市における持ってない生徒の割合：平成26年度 35% →平成29年度 28%）
 →携帯電話やスマートフォンの所持率の増加傾向が見られます。

◆「家の人（兄弟姉妹を除く）は、授業参観や運動会などの学校行事に来ますか」

〈よく来る〉…39% (-14) →参観日等の学校行事への参加率が低い傾向が見られます。

2 今年度の特徴的な傾向

(1) 部活動の加入率と活動時間

今年度は、右のような部活動に関する質問項目が加わりました（表1）。松本市の中学生の部活動の加入率は、運動部・文化部ともに全国に比べ、低い傾向が見られます。また、活動時間は、全国に比べ、短い傾向が見られます。加入率が低いのは、学校以外の社会体育などの活動へ参加していることが一因として考えられます。活動時間が全国に比べ、短い傾向が見られるのは、松本市では、「松本市中学生期のスポーツ指針」を県下に先駆けて策定し、各校がこの指針に基づいた部活動を行っているためと考えられます。

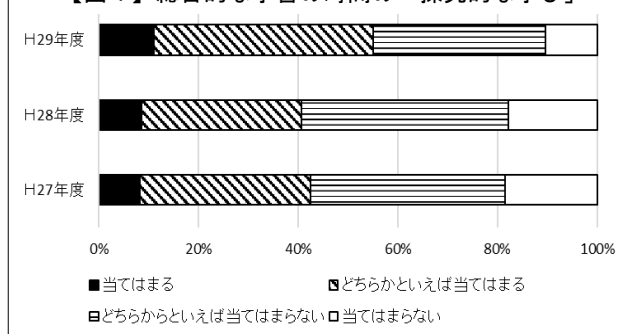
(2) 総合的な学習の時間における「探究的な学び」

図1は、「総合的な学習の時間で、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」という「探究的な学び」に

【表1】部活動に関する質問項目

Q 学校の部活動に参加していますか	松本市	全国
運動部にだけ参加している	59.9%	66.7%
文化部にだけ参加している	18.8%	19.9%
運動部と文化部の両方に参加している	0.7%	1.0%
運動部、文化部のどちらにも参加していない	20.6%	12.2%
Q 平日、1日当たりどれくらい部活動をしますか	松本市	全国
3時間以上	9.5%	11.6%
2～3時間	41.1%	44.0%
1～2時間	27.8%	28.4%
30分～1時間	2.2%	3.2%
～30分	0.6%	0.9%
全くしない	18.4%	11.5%

【図1】総合的な学習の時間の「探究的な学び」



関する質問の回答について、3年間の経年変化です。「探究的な学び」を行っているという肯定的な回答が年々増え、今年は55%となりました。しかし、全国と比べると約10ポイント低いので、3(1)にもあるように更なる授業改善が求められています。

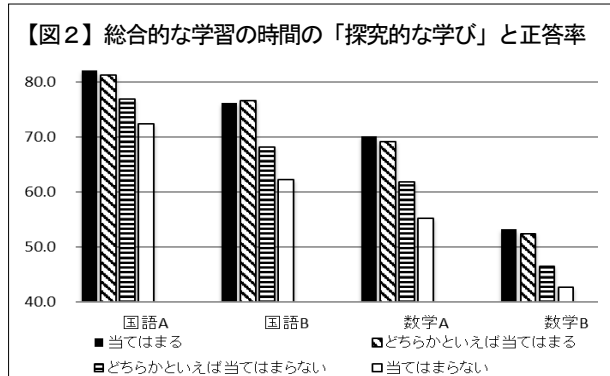
3 学力状況と生活・学習実態との相関関係

(1) 総合的な学習の時間における「探究的な学び」と正答率

図2からわかるように「探究的な学び」を行うほど、正答率が高くなる傾向が見られます。「課題の設定」、「情報の収集」、「整理分析」、「まとめ・表現」を一連とする「探究的な学び」のプロセスは、答えのない21世紀を生き抜くために必要な力と考えられています。

こうした「探究的な学び」を繰り返していくことは、自ら課題を見付け、主体的に学習に取り組む中で、課題を解決していく力を身に付けることにつながります。

今後、中学校では、まとまった時間が確保できない、学校行事に向けた学習の時間が少ないなど様々な課題を抱えています。しかし、これまで行ってきた学習を生かしながら、生徒自らが「問い」をもち、その「問い」を解決するための「探究的な学び」を位置付けていくことが必要です。また、総合的な学習の時間で学んだ「学び方」を、各教科でも活用していけるような授業改善が求められています。

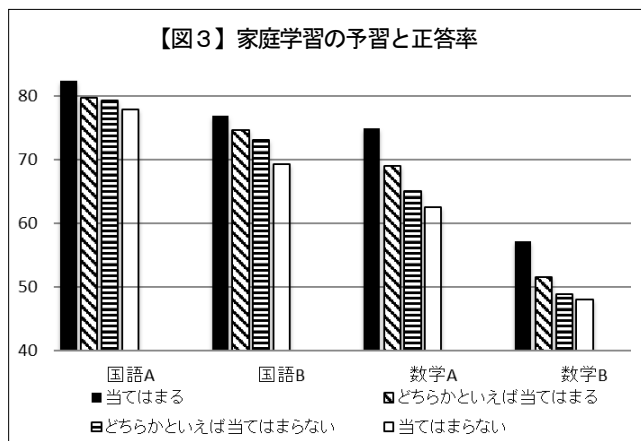


(2) 家庭学習と正答率

右の表2は、家庭学習に関する4項目について、全国と比較したものです。これを見ると、予習以外の3項目は、ほぼ全国と同じ傾向ですが、予習は、全国に比べ約10ポイント低いです。図3を見ると、家で予習をしていると答えている生徒ほど、正答率が高くなる傾向が見られます。家庭学習の改善への取り組みが進んでいますが、今後、授業と連動した家庭学習、特に予習を意識した家庭学習について、さらに取り組んでいくことが大切であると考えます。

【表2】家庭学習に関する質問項目

家庭学習に関する質問項目	松本市	全国
家で、自分で計画を立てて勉強していますか	51.4%	51.5%
家で、学校の宿題をしていますか	90.9%	89.5%
家で、学校の授業の予習をしていますか	22.2%	31.7%
家で、学校の授業の復習をしていますか	50.5%	50.5%



4 まとめ

松本市では、「学都松本」の取り組みとして、学校・家庭・地域が一体となって中学生の健やかな成長を目指しています。特に、松本版・信州型コミュニティスクールの活動により、地域とのかかわりを深めながら、「共に学ぶまちづくり」「開かれた学校づくり」が進められています。今後、総合的な学習の時間や家庭学習をはじめとする様々な場面で、学校と家庭・地域が手を携えながら、子どもたちが生涯にわたって主体的に学ぶ環境づくりの充実を図ることが求められています。